

2022年3月期 第1四半期決算の発表について

昭和産業株式会社(社長:新妻一彦)の2022年3月期第1四半期連結決算は、売上高68,875百万円、経常利益1,347百万円となりました。2022年3月期連結業績予想については、売上高2,800億円、経常利益90億円を見込んでおります。

【2022年3月期第1四半期連結決算】

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済・社会活動が制限され、極めて厳しい状況が続きました。国内でのワクチン接種も始まり、経済については持ち直しの動きが見られたものの、同ウイルス変異株の増加や3度目の緊急事態宣言が発出されるなど、感染の収束にはまだ時間がかかる見通しです。

さらに、原料穀物におきましては、中国の堅調な需要や北米の熱波による減産の懸念、バイオ燃料用途への需要増などから依然として原料穀物相場は上昇を続けており、引き続き厳しい経営環境が見込まれます。

このような状況の中、当社は創立90周年を迎える2025年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた2nd Stage「中期経営計画20-22」の2年目に入りました。長期ビジョンの「確立」のステージと位置づけ、5つの基本戦略においては、これまでの「①基盤事業の強化」に注力しつつも、軸足を「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」へと大きく移し、それらを支える「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」についても優先度を高めて各施策の推進に努めてまいります。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は68,875百万円と前年同期に比べ7,758百万円(12.7%)の増収となりました。営業利益は1,042百万円と前年同期に比べ1,242百万円(54.4%)の減益、経常利益は1,347百万円と前年同期に比べ1,374百万円(50.5%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は823百万円と前年同期に比べ1,096百万円(57.1%)の減益となりました。

【2022年3月期連結業績予想】

第2四半期以降も新型コロナウイルス感染症拡大の状況、為替や穀物の相場動向など、当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続くものと予想されますが、2021年5月14日に公表した2022年3月期(2021年4月1日~2022年3月31日)の連結業績予想につきまして変更はありません。

以上

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当:赤松
TEL:03-3257-2042